

《編集後記》

IRATSUME11号の編集作業を終え、ホッと一息ついていきます。年が明けてからの4か月間は、休日、ウィークデーを問わず、時間のあるときは、本誌の完成を目指してコツコツと作業を積み重ねました。仕事の合間を縫っての作業は、楽なものではありませんでしたが、それだけに出来上がったときの喜びはひとしおです。この気持ち、やった者でないと、わかんないだろうなー。

今号には、全部で28編の報文が寄せられました。継続的な生態研究あり、目録あり、紀行文あり、とバラエティーに富んでいます。そして、短報が増えたのが目を引きます。これは、記録をとどめる意味からも、いい傾向といえます。但馬に関する記事が多いのも、嬉しいですね。ただ、寄稿者の顔触れが固定化しており、次号では新たな会員からの投稿も期待したいところです。

いつものことながら、ムカシトンボ、水生昆虫、甲虫などの報文では充実した内容が見られます。蝶の分野でも、これらに類するものが出てきて欲しいと感じるのは、我々だけではないでしょう。渡辺氏も書かれているように、但馬地方在住の蝶屋さんには、その特権をフルに行使してほしいものです。

寄せられた原稿について、その現状をお知らせしておきましょう。年々、精度は良くなってきていますが、それでもまだ半数程度は、手のかかるものです。編集サイドで困るのは、書きっぱなしの状態で送られてくる原稿。ひどいものになると、こちらが一から手を入れなければならないものもあります。そこまでいなくても、整理していると、つじつまが合わない箇所が出てきたり、ケアレス・ミスが随所で目についたりします。どちらともとれる表現も、困りものです。こちらでも助言はしますが、やはりこの問題も、本人がその気で取り組まないと、いつまでたっても向上は望めません。今後は、こういう点も意識しながら執筆して、出来上がったから見直す習慣をつけていただきたいと思います。

IRATSUME No.11

1987年5月20日発行

発行者：但馬むしの会

発行人：木下賢司

編集者：谷角素彦・石田達也

連絡：☎669-68 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方